

## 第3章 観光振興の方向性

### 1. 長崎県観光の将来像

この計画では、5年後の本県観光のあるべき姿（将来像）を次のように掲げます。

#### 感動あふれる長崎県 ～みんなで磨く、文化と食と真心と～

県内各地域において、県、市町、観光振興団体、観光関連事業者、県民など、多様な関係者が連携し、本県の強みである「交流の歴史で培われた文化」や「豊かな自然から生み出された食」、「交流や平和への祈りで育まれてきた真心」を磨き、本県観光の魅力をさらに高め、将来にわたって旅行先として選ばれ、また訪れたいと思われる「感動あふれる長崎県」を目指します。

### 2. 観光振興の5つの柱

前述した長崎県観光の現状と課題を踏まえながら、長崎県観光の将来像の実現のため、観光振興に取り組む方向性として5つの柱を掲げ、効果的な観光施策を展開していきます。

#### 1 滞在型観光コンテンツの充実等による観光まちづくりの推進

- 観光客の満足度を高め、再び訪れたいと思われる魅力ある観光地を創出し、観光客のリピーター化と観光消費の拡大を図るため、地域住民等が主体となって取り組む魅力ある「観光まちづくり」をさらに推進します。
- MICE<sup>1</sup>施設（出島メッセ長崎）開業、新幹線開業、民間による長崎スタジアムシティプロジェクト、国民文化祭の誘致、IRの誘致などの大型プロジェクトが進行しており、これらの効果を最大限活用した「観光まちづくり」と、本県の特長でもある離島観光を推進します。
- 観光客の満足度向上に重要な要素となる「食」のサービス提供の充実や、「文化・自然・スポーツ」等を活用した、滞在型観光コンテンツの充実に取り組みます。

1 【MICE】企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称

## 2 訪れる人に期待以上の満足を感じさせる「おもてなし」力の向上

- 宿泊施設において、長崎県ならではの価値や魅力を伝え、観光客のニーズに応じた質の高いサービスを提供する人材の育成・質の向上とそのネットワークの構築や、観光ガイド・宿泊施設など観光関係の人材確保・育成を図ります。
- 2040年問題も視野に入れながら、高齢者や障害者等を対象とした誘客拡大を図るため、ユニバーサルツーリズムの持続可能な受入態勢の構築を図ります。
- 本県を訪れた観光客に、期待以上の満足を感じていただく観光地を目指し、県民、観光関係事業者、観光振興団体や行政等が一体となって、「真心を込めたおもてなし」をレベルアップしていく意識を共有し、総おもてなし運動の裾野の拡大を目指していきます。

## 3 安全・安心対策や観光産業の高付加価値化の推進

- 感染症や災害等の経験を踏まえ、観光関連事業者の安全・安心対策や企業体質の強化に関する取組を推進します。
- 富裕層に対応したサービスの充実を図るなど、観光産業の高付加価値化を推進します。

## 4 観光客のニーズやターゲットに応じた訴求力のある情報発信と周遊観光の促進

- ICT等を活用しながら効果的な観光施策を検討するとともに、観光客のニーズやターゲットに応じた訴求力のある情報発信を行い、誘客促進を図ります。
- 富裕層に訴求できる観光コンテンツの発信やマイクロツーリズムなどウィズコロナ・ポストコロナ時代の旅行需要を捉えた誘客促進を図ります。
- 出島メッセ長崎や新幹線の開業をはじめとする大型プロジェクトの効果を最大限活用した本県への誘客促進と周遊観光の促進を図ります。

## 5 環境変化や市場動向を踏まえたインバウンド観光の推進

- 海外との交流の歴史や世界遺産など本県の強みを生かしたテーマ型観光を推進するとともに、ターゲット市場の特性に応じた観光コンテンツを地域と連携して磨き上げることで、インバウンドの受入拡大と誘客の多角化を推進します。
- インバウンドの個人旅行化が進展する中、二次交通の利便性向上や多言語対応等による円滑なコミュニケーション支援など受入環境の整備に取り組みます。
- デジタル化やコロナ後の個人旅行化の進展に合わせて、Web・SNSを活用したデジタルプロモーションとともに現地での情報発信を強化することで本県の観光地としての認知度向上を図ります。
- 感染症等環境の変化を踏まえた国際クルーズ客船の誘致とともに、国際定期航空路線の維持拡大及び国際チャーター便の誘致に取り組みます。